

■ 実践報告 環境

環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム)

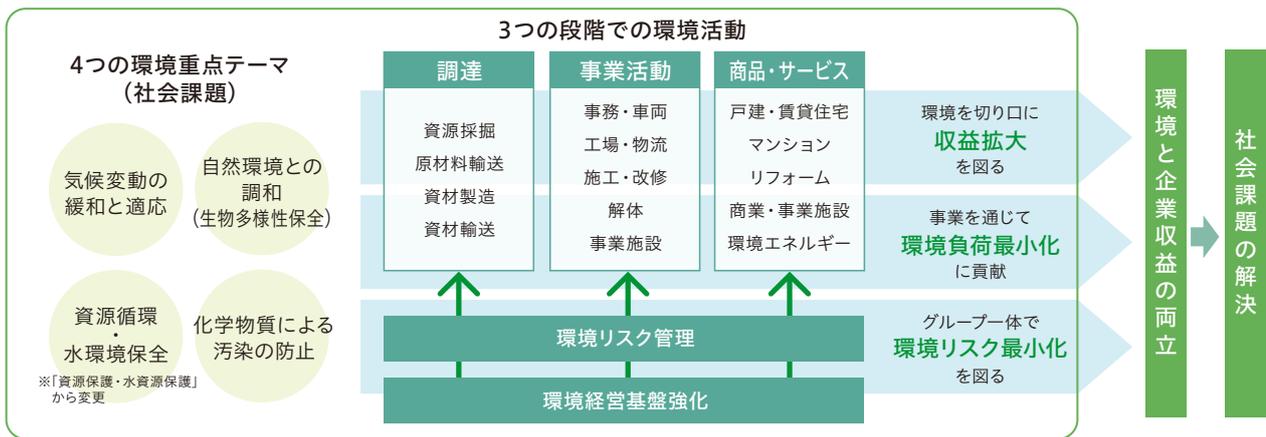
大和ハウスグループでは、環境長期ビジョンの実現に向け、環境長期ビジョンからバックキャスティング(逆算)した、2030年のマイルストーンを設置し、中期経営計画の対象期間に合わせて、およそ3ヵ年ごとに具体的な目標と計画を「エンドレス グリーン プログラム(EGP)」として策定し、活動を推進しています。

EGPでは、ステークホルダーの関心度および事業との関連性が高い「4つの環境重点テーマ(社会課題)」を特定し、これらに対して「調達」、「事業活動」、「商品・サービス」の3つの段階において取り組みを進めます。

環境行動計画のあゆみ



環境行動計画の全体像



マテリアリティ (重要課題) の特定

当社グループの環境への取り組みについて事業における重要度と、社会からの要請や期待を考慮して重要課題を抽出しました。有識者による妥当性の確認を経て、マテリアリティを特定しています。

また、特定した重要課題およびその他の課題について、当社の取り組みレベルと照らし合わせ、環境行動計画の目標レベル・基本方針に反映しています。

当社グループ公式Webサイト マテリアリティ (重要課題) の特定
<https://www.daiwahouse.com/sustainable/eco/egp/materiality/>

マテリアリティマップ



環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2021)

「エンドレス グリーン プログラム 2021」(2019～2021年度)では、新たに海外も含めた全グループ会社を対象に「環境と企業収益の両立」に向けて、「ライフサイクル思考に基づくグループ・グローバル一体での環境経営の推進」をさらに加速。なかでも脱炭素化に向けた取り組みは、第6次中期経営計画(2019～2021年度)でも方針のひとつに掲げ、重点を置いています。

「エンドレス グリーン プログラム 2021」重点方針

- ① SBT・EP100・RE100の実現に向け、商品と事業活動の両面から“脱炭素”を推進
- ② サプライチェーンにおける環境リスク低減に向け、win-winの取り組みを協働
- ③ 事業競争力の向上に向け、環境配慮商品・サービスの開発・普及を推進
- ④ 環境ブランド・ESG評価の向上に向け、戦略的な環境コミュニケーションを推進
- ⑤ 環境経営の推進に向け、グループ・グローバル一体での環境マネジメントを強化

「エンドレス グリーン プログラム 2021」の基本方針

「エンドレス グリーン プログラム 2021」重点方針をふまえ、各テーマ、各段階ごとに基本方針を定めています。

重点テーマ	段階	基本方針	
総合(環境貢献型事業の拡大)	商品・サービス	● 環境と企業収益の両立を目指し、環境配慮型商品・サービスの開発・普及を推進	
気候変動の緩和と適応(エネルギー)	調達	● 主要サプライヤーにおける目標設定および取り組み推進に向けた支援	P031
	事業活動	● 新築自社施設のZEB化、既存施設の省エネ運用改善および計画的な設備更新の継続 ● 再生可能エネルギーを自ら創る・運ぶ・使う	
	商品・サービス	● ZEH・ZEB・グリーンビルディング認証の推進	
自然環境との調和(生物多様性保全)	調達	● 持続可能な木材調達の推進	P042
	事業活動	● 自社グループ施設における緑化の推進/海洋プラスチック汚染問題への取り組み「Daiwa Plastics Smart Project」	
	商品・サービス	● 開発・まちづくりにおける緑の保全・創出の推進	
資源循環(長寿命化・廃棄物削減)	調達	● 資源投入量の削減	P048
	事業活動	● 建設廃棄物における3R活動の推進	
	商品・サービス	● 資源循環型商品(高耐久・長寿命・省資源)の開発および普及	
水環境保全	調達・事業活動・商品・サービス	● 水リスクの把握と低減、自社施設、住宅・建築物の水使用量削減	
化学物質による汚染の防止	調達	● 調達建材における化学物質管理の強化	P054
	事業活動	● 生産段階における有害化学物質の削減	
	商品・サービス	● 居住系施設における室内空気質のさらなる改善	
環境経営基盤強化	環境リスク管理	● 自律的なグループ環境法令管理体制の運用	
	環境教育	● 環境経営人財の育成、全従業員の環境意識・知識の向上	
	マネジメント	● グループ・グローバル一体での環境経営の推進	
	コミュニケーション	● 戦略的かつ効果的な情報開示、環境コミュニケーションの推進	